

主図版①「皇甫誕碑」碑額



主図版③「玄秘塔碑」碑額



主図版②「多宝塔碑」碑額



主図版④「等慈寺碑」碑額



四種とも紙面の都合で碑額の一部分のみ掲載。

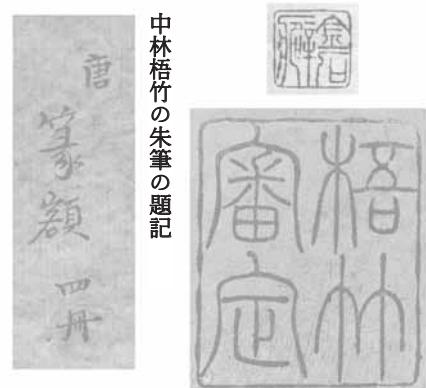
# 「落ち穂拾い記」⑯

## 梧竹堂法帖(上) 中林梧竹旧藏『唐碑額集』

図版①唐碑額集の題簽



図版②中林梧竹の鑑藏朱文印二種  
「金石癖」と「梧竹審定」



図版③梧竹堂法帖目録の巻頭と唐碑額部分



古書店の古書目録も楽しみなものの一である。欲しい書物があれば、電話で注文することができる。直接に原物を目にしなくとも、目録の写真図版や簡単な説明でおおよそ確認できる場合もある。目録を見て注文する場合、我々のような暇なものは、当時の多忙な有名な老大家の先生よりも早い場合があり、珍しいものを入手できることもあった。「梧竹堂法帖」も目録注文で得た。「梧竹堂法帖」の題簽(図版①)があり、やや大型の線装本四冊を一帙にまとめたものである。内容は、歐陽詢の「皇甫誕碑」を始めとする唐宋碑の碑額拓本四十件余を収録している(右貞主図版)。この帖は、「梧竹堂法帖」の名が示すように、近代日本の偉大な書家・中林梧竹(1827~1913)の所蔵した碑帖である。正確には明治中期に中林梧竹が清国にわたり一年余り北京に滞在して購入し、製本装幀し、日本に将来した。中林梧竹の秘蔵拓本である。拓本には、大事にしていたことを示す「金石癖」や大きな「梧竹審定」の朱文印が各冊の前後に捺されている(図版②)。この本の由来や背景を知りたくなり、「墨美」など書道誌に梧竹研究を発表され、梧竹研究家として著名な佐々木盛行氏(1914~?)を九州まで訪ね、この『梧竹堂法帖』について教示を得た。当時、佐々木氏の所蔵されていた梧竹

翁の大型の手控え帖の中に、梧竹の自筆の梧竹堂法帖目録があり、石鼓文から始まり、最後の八枚目の中に「唐碑額 篆隸八分楷 三十六種」(図版③)の文字を見つけていた時は、嬉しかった。更に佐々木氏から、その他の大部分の「梧竹堂法帖」は、金沢にあると教えられた。こうしたことを契機に梧竹の書法よりも、梧竹の書學(碑学)に関心を抱くようになった。十年ほど前に、「梧竹堂法帖」考を仕上げるにあたり、この本を何時頃購入したか知りくなり、今でも神保町にあり営業されているY古書店の二代目主人に、古い目録を拝見したいとお願いしたが、建て替えて整理され、当時の目録を探し得ないと。その後、千代田区図書館に、有名な古書肆・反町弘文荘旧蔵の近代の古書店目録のコレクションがあることを教えられ、Y古書店の古書目録を閲覧し調べた。自分の記憶よりも古い目録に掲載されていた。昭和48年6月の24号、『碑帖・画冊類』の670に、「唐碑額拓本 原石拓 題簽 梧竹堂法帖 梧竹審定の大方印鈐 一帙 四 30,000」とあった。振り返ると二十代の末に購入していたことになり驚いた。その十数年後に偶然、小型の「梧竹堂法帖」に巡り合った。

伊藤滋(書斎名・木鷄室)

# 書道芸術院

## 令和の群像 (2021)



第48回「日本の書展」関西展 招待 「いのる言葉」

大平邑峰書



大平邑峰

師匠から古典学習の手ほどきを受けて書に面白味を感じるようになったのは中学生の頃だった。高校生になると書道芸術院展や毎日展に出品するようになり40数年が過ぎた。その間、関係する書展も増え、それらは自然と自身の書活動の結果を発表する場となっている。いつも全力投球でいきたいところだが、ここ数年はそれらに追われているのが実情かも知れない。そんなところに昨年新型コロナウイルス感染症が発生した。人々の生活を一変させ、関係する書展も昨年は春以降ほとんど中止となつた。唯一秋に全県規模の書展が開催されたが、ある同年代の出品者が久々の書展に「自分は書道展の中で生きてきたんだと実感できた。」と声を上げていたのは印象的であった。実は私自身も久々にたくさんの書作品を前にして新鮮な感覚を感じていたのだ。追われるようにして出品を続ける中でも、何かしらの育ってきた部分があったのは確かのようである。

さて、今の時代、自身の表現物を発信する方法は多岐にわたっている。書による創作物を世に問うツールも書展にとどまつていい。インターネット上では、Webや動画、ブログ、ツイッター等のSNSを使って作品やペ

フォーマンス、考えを発信している人も多数目にするようになつた。それらによつて賛同者が現れ、輪が拡がつていけば、書の表現者としてはある意味成功と言えるのかも知れない。私も一時期試しにとウェブサイトを立ち上げてみたことがあるが、完全にスキル不足プロバイダーの変更に伴い撤退した。しかし、若い人はネットで人と繋がるのは普通のことであり、書のカテゴリーもこの傾向は今後も強まっていくのではと感じている。

前出の表現者という言葉を時おり耳にする。表現者とは様々な分野において、自分の考えていることを何らかの作品を通じて発信をする人物のことだそうだ。表現者は、生み出した創造物となるべく多くの人に発信し、共感してもらえるよう恒に努力していく。自らの世界観を正確に受け手に伝わるよう極限まで突き詰めたり、新しい技法を考え出したりする。そういう姿勢が表現者の要件であるとのことである。これから新しい生活様式の中で、書の位置づけや文字を書く文化がどのようになっていくのかを見据えながら、書の表現者でありたいという気持ちを大事にして、自分のできることに地道に取り組んでいきた

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

## (公財)書道芸術院理事会

### 書面審議にて開催

昨年3月の定例理事会からコロナ禍による影響を受け、理事会・評議員会など軒並み書面による審議をせざるを得なく、役員各位にはいろいろご迷惑をおかけした。今回3月の定例理事会も緊急事態の延長により、やむなく書面による審議とせざるを得なかつた。

以下主な内容を報告する。(詳細は別記院報にてご確認いただきたい。)

#### 一、議事

##### ①議案第1号 令和3年度事業計画

##### ②展覧会事業

##### ③講演会

##### ④議案第4号 書道芸術院の会員規則

##### ⑤企画委員の選任

##### ⑥新任 三宅佳峰(現・山陽)

##### ⑦祝賀会 2月6日帝國ホテルにて

##### ⑧海外展 前記した通り、現下の状況を考慮し、現地大使館との交渉を行って開催の可否を検討する。

国際交流ウイーン書道展は創立75周年記念事業の一環として、令和4年度に開催の有無を含め検討する。

②単位認定講習会は昨年実施予定の岡山会場が順延されたが、本年も実施には不安定な状況があり、岡山会場での開催は更に次年度へ延期する。2年間の不実施は避けたいため、本年は特別に本部主管として東京会場にて開催することとなつた。

ご理解とご協力をお願いしたい。

(現行一万~三万円)

・無鑑査への弔慰金 五千円

(現行一万円)

①第75回記念書道芸術院展開催

歴代会長、過去5年間にご逝去された本院審査会員の遺作を展示する。

②物故者慰靈祭 2月6日表彰式に続き、ご遺族代表をお招きして行う。

③外部招待者、本院関係参加者にて

歴代会長、過去5年間にご逝去された本院審査会員の遺作を展示する。

④祝賀会 2月6日帝國ホテルにて

外部招待者、本院関係参加者にて

歴代会長、過去5年間にご逝去された本院審査会員の遺作を展示する。

⑤功労者表彰 今回は前回以降の功績を考慮して功労者を表彰する。

祝賀会に先立ち行う。

⑥記念作品集 今回は経費節減のため71回展以降5年間の小史として、作品掲載も財団役員および上位入賞作品約200点を掲載し、約150頁位で発行する。無鑑査以上全員、外

部贈呈者に配布のほか、一般へは3000円(予価)で頒布する。

⑦全国巡回役員作品展開催。13総支局を会場に令和4年3月より12月を目途に開催する。財団役員(顧問、理事、監事、評議員、参事)約55名にご出品いただき、各総支局の企画により地方展を含め開催する。

⑧海外展 前記した通り、現下の状況を考慮し、現地大使館との交渉を行って開催の可否を検討する。

実施は来年度秋を予定する。

・新任 浅野彩紅(前・東北)

②企画委員の選任

・書道芸術院人事(昇格・移籍・退会など)別記

・その他 別記院報参照

第72回毎日書道展開催へ

昨年開催を見送った毎日書道展は本年改めて第72回展を開催する。日程などはほぼ例年通りにおこなわれる。既にお手元に開催要項が送付されていると思うが、今回の新しい開催要項、出品票を使用するようご注意を。

・出品票は「2021年」と表記のある新しいものを使用すること。昨年配布された要項のなどは使用しない。(廃棄を)

・漢字部、近代詩文書部の会友作品は必ず5月出品票搬入と同時に作品も搬入すること。(5月鑑別審査の折に入賞予備審査が行われるため)

会議が開催され、第8期主席に孫曉雲(65歳・女)が就任した。前主席蘇士樹氏は名誉主席(ほかに沈鵬、張海各氏)副主席に王丹、毛國典、李昕、葉培貴、張繼、顧亞龍ほか6名が就任。

第8期中国書法家協会主席 孫曉雲女史就任

1月27日中国書法家協会全国代表者会議が開催され、第8期主席に孫曉雲(65歳・女)が就任した。前主席蘇士樹氏は名誉主席(ほかに沈鵬、張海各氏)副主席に王丹、毛國典、李昕、葉培貴、張繼、顧亞龍ほか6名が就任。

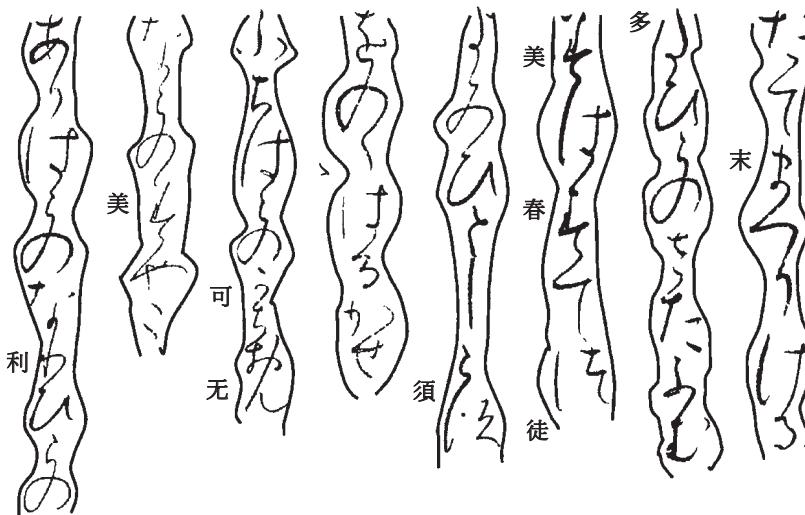
・審査会員候補以上への弔慰金 一万円

## 行について

同じ大きさの文字が続くとリズム感は出ません。ここでは、長い行を書く上で不可欠な文字の変化の表れ方を、古筆によって見ていきます。

## ①行幅の変化

(高野切第一種より)



- ◎原稿用紙のように、同じ大きさの文字が並ばない
- ◎行幅の変化を出すために、単純な平がなや変体がなを使用する
- ◎変化は、徐々に移行する

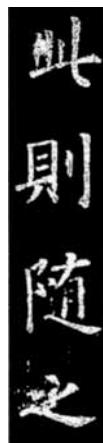
## 基礎基本講座

## 【九成宮醴泉銘】歐陽詢 唐 632年

九成宮とは、唐太宗が隋の仁壽宮を修復して造った離宮の名。太宗自ら甘水の水源を発見し、これを吉祥の印と考え、記念碑を建立したのが九成宮醴泉銘である。

魏徵が撰文し、歐陽詢が76歳の時に書した。度重なる採拓によって碑面は著しく摩滅している。

## ・原帖



## ①写実的臨書



- 特徴**
- ・縦長で背勢の結構は厳正で楷法の極則と言われている。
  - ・線は筆力峻勁である。

## ①写実的臨書

- ・形を整えるためには、点・線の間隔を均等にする。
- ・澄みきった張りのある線になるためには、入筆された筆先が紙面に掛かった瞬間に緩まず送筆する。終筆は反動を利用して押し返す。この一連の動作を速く

## 行について

同じ大きさの文字が続くとリズム感は出ません。ここでは、長い行を書く上で不可欠な文字の変化の表れ方を、古筆によって見ていきます。

## ①行幅の変化

(高野切第一種より)



## ②発展的臨書

- 行うことで峻勁な線となる。筆は側筆に構える。
- ・現代詩文書に展開させるためのひらかなど調和を考えると、厳正な楷書のままでは溶け合わない。そのためには各々の文字に木でいう幹になる部分を強調し、枝葉になる部分と織り交ぜて書く。そうして書くことでリズムが生まれてくる。



「聖火」

広瀬 舟雲

【春華賞】現代詩文書部 広瀬舟雲

大らかで暢びやかな筆致が、スケールの大きな悠揚迫らぬ表情を見せ、観者を魅了する快作。

〈辻元大雲先生評〉

書道芸術院春華賞

昨年、東京オリンピックの聖火がギリシャ・オリンピアで採火されたのを祝し、今回展出品作では神聖なる太陽光がぐっと凹面鏡に向かって差し込む様子を草書「光」と行書「面」の中に形象化することを試みました。 東京2020の聖火台は、会期中お台場の「夢の大橋」に設置される予定とのこと。まさに本学有明キャンパスの正門前。今年こそ開催を!!と未だに漂うコロナウイルスを吹き飛ばすべく願いを込めて、渾身の力で揮毫した作品です。思いがけず栄えある春華賞を頂き、感激と感謝の気持ちでいっぱいです。

今日まで私を育ててくださった師の種谷扇舟先生、辻元大雲先生の温かくも厳しいご指導のお蔭と深く感謝申し上げます。芸術院の先生方の常日頃のご助言や激励のお蔭でもあります。誠にありがとうございました。



現代詩文書部  
広瀬舟雲

第74回書道芸術院展

〈1〉

書道芸術院大賞



現代詩文書部  
斎藤恭子



「吉田一穂の詩」

斎藤恭子

これまでご指導下さいました熊谷宗苑先生、宮城野書人会の先生方、書友の皆様に心より感謝申し上げます。 続くコロナ禍で先が見えぬ状況ではありますが、今後とも一層研鑽を積んでまいりたいと思いますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

この度は、栄誉ある「大賞」を頂き誠にありがとうございました。  
信じられない朗報に身の引き締まる思いでおります。  
長年勤めた仕事を定年で辞し、書道に打ち込むもうと思つていた矢先に新型コロナウイルス感染が拡大し、不安な日々を過ごすなか「吉田一穂」の詩と出会いました。

【大賞】現代詩文書部 斎藤恭子

中央部の大膽な表現が核となり、左右の小書き、落款が要所を締め、立体感を醸し出す快作。

〈辻元大雲先生評〉

書道芸術院準大賞

「見渡せば」

熊谷 翔



かな部  
熊谷 翔

【準大賞】かな部 熊谷 翔  
強く潔い線が際立ち引きつけられる。  
書にも藤井聰太が現れた。新しいかな  
が楽しみである。

〈石井明子先生評〉



「雪の花」

工藤 山房



前衛書部  
工藤 山房

【準大賞】

前衛書部 工藤山房

白と黒の逆転の発想。漆黒の  
闇に光の線が耀き、飛沫も空  
間に響いて音楽を感じさせる。  
〈千葉蒼玄先生評〉



「七言二句」

小林 舟轍



漢字部  
小林舟轍

【準大賞】漢字部 小林舟轍

大変、骨力の有る確りとした七言二句の作  
品。筆力もあり、これは永年の習練の証左  
であろうか。 〈後藤大峰先生評〉



「月蛾」

柳川 蝶月



現代詩文書部  
柳川 蝶月

【準大賞】 現代詩文書部 柳川 蝶月

発信力のある霸気に先づ魅せられた。木簡隸を織り混ぜた表現力にも新鮮さがあり、作家精神を垣間見る。  
〈下谷洋子先生評〉

❖ 白雪紅梅賞の受賞者と作品については、次号(721)の「特集・書道芸術院展(続)」で紹介いたします。

(編集部)



早坂 萌香



前衛書部  
早坂 萌香

【準大賞】 前衛書部 早坂 萌香

上部に重厚さ、下部に渴筆で表現されて全体のバランスの取れた作である。  
下部の線質は最高である。  
〈板垣洞仙先生評〉

〈第73回展で選抜（春華賞・春華賞候補）された大作コーナー〉



「雷轟」 240×340cm

佐藤 菜扇



漢字部  
佐藤 菜扇



「命」 60×155cm

田代 明眸



篆刻・刻字部  
田代 明眸



「雲徒龍」 60×155cm

田代 明眸



汝陰太守。綿榮千載。聯光百世。自非積德累仁。慶屆



(掲載図版・52%に縮小)

古典鑑賞

431

古典鑑賞  
①  
北魏 鄭道昭

〔解説〕中国山東省掖縣の雲峰山や天柱山には、北魏の名族の一人鄭道昭（？—516）の書による摩崖碑（天然の岩壁に刻した石碑）が多数残されている。鄭羲下碑はそのうちの一つで、鄭道昭が父の鄭羲（426—492）の事跡などを後世に伝えるために摩崖に刻した頌徳の碑である。鄭文公下碑ともよぶ。

永平4年（511）、天柱山の岩壁に刻したが、石質不良のため、さらに雲峰山の崖石に彫り直し、前者を上碑、後者を下碑と言う。鄭羲下碑は奥行4.5mの蒲鉾状の巨岩の一面に刻されている。字面の大きさは高さ2m、幅約3.4m。行数は全51行、全文1230余字より成り、本文の一字の大きさは約6cm。その書は、筆力が強く、点画や字形に丸みをもたせた円勢の用筆が特徴である。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

（編集部）

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)  
(B. 小品の部—半切以上半切以内・全紙1/2(約68×68cm)以内も可(縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

古筆鑑賞

高野切第三種  
(紀貫之)

①

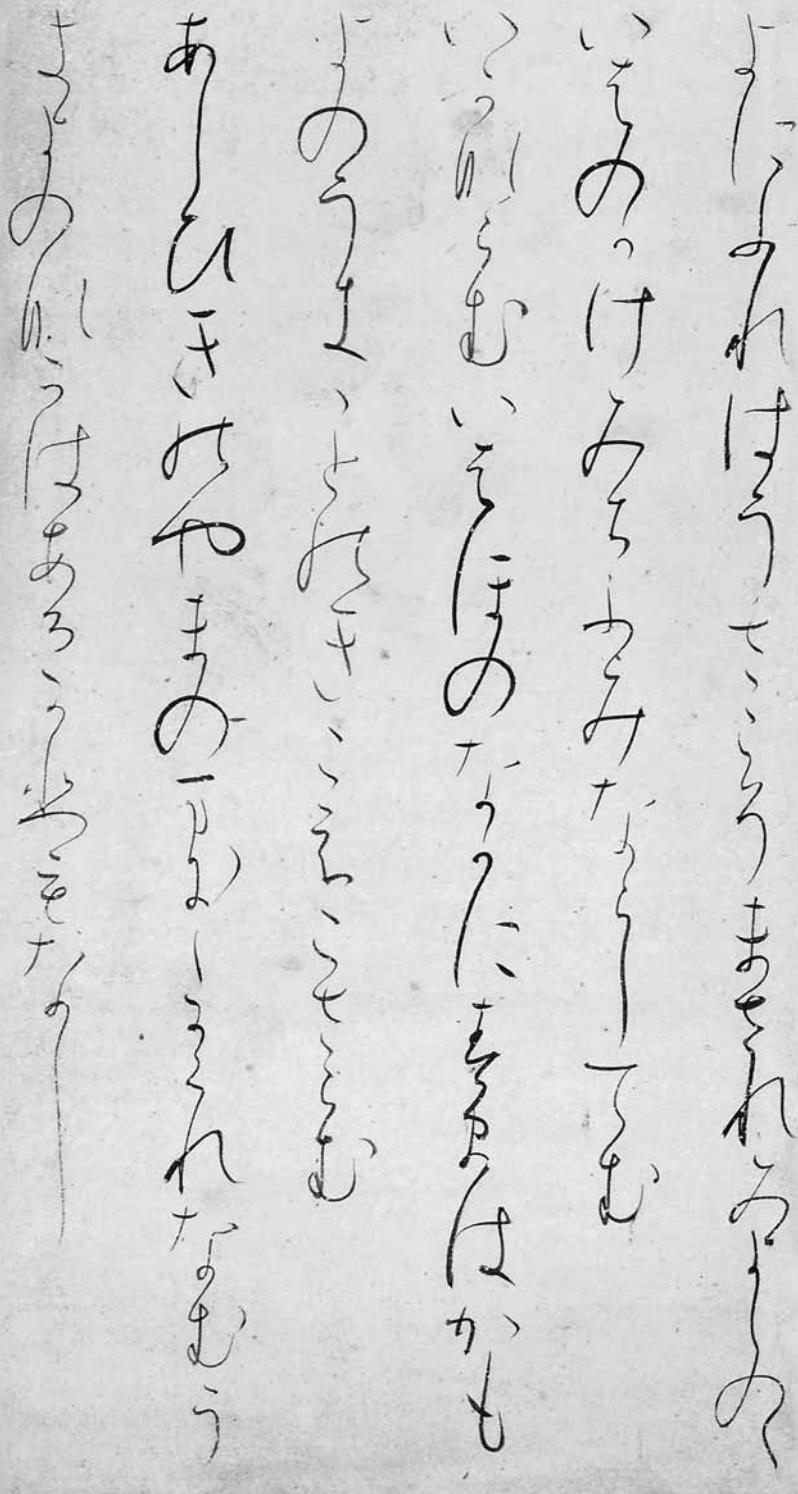
205

〈よみ〉

よふればうさこそまされみよしの、  
いはのかけみちぶみならしてむ  
いかならむいはほのなかにすまばかも  
よのうきことのきこえござらむ  
あしひきのやまのまにくかくれなむう  
きよのなかはあるかひもなし

〈解説〉高野切は、「古今和歌集」の現存最古の写本。卷第九の巻頭の断簡が高野山に伝来したことから、この一連の断簡を「高野切」と呼んでいる。すべてが紀貫之(?)~95)の書と伝えられてきたが、11世紀半ばに3人の能書による分担揮毫(寄合書)したものである。その書風の違いから、第一種・第二種・第三種に分類される。この高野切第三種は、洗練された張りのある筆線を駆使しながら、明るく流動美あふれた書風が特徴である。

(編集部)



(個人蔵)

(掲載図版・85%に縮小)

※古筆は原寸(以上も可)  
で臨書しましょう。

※落款を必ず入れる。○○臨(押印のみも可)

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)  
別紙を裁断して貼付も可。半棧紙は半紙サイズに切って使用のこと。  
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全廻も可)

特別研究部臨書課題

A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙也可  
B. 小品の部=半切以上、半切以内・全紙(約68×68cm)以内も可(縦横自由)  
<当該古筆の左記掲載部分以外も可。>

種谷萬城

(碧巖錄)

森羅萬象  
(森羅萬象)

森羅は樹木が限りなく茂り並ぶ

こと。万象は万物やあらゆる現象。

宇宙に存在する数限りない全ての

物や、事象が森羅万象です。昨年

より、世界中で、思いも因らぬ事

態が起こり、この言葉が浮かびま

した。羊毫筆で、行書と草書を混

在させ、その調和を試みました。

もう一作では行書・草書を替えて  
みました。書の表現は無限です。

様々な構想を練って下さい。

参考作品



森羅万象 よみ (森羅萬象)

書体=自由



習い方解説 (一)

千葉 蒼玄

辛丑暮春  
(辛丑暮春)

\*今年の干支、暮春は3月

今年は牛(丑)年である。古典の碑帖には巻頭にこの干支が入っているものも多い。代表的なものは

蘭亭叙“永和九年歲在癸丑暮春之初”と記した。内容は曲水の宴の序文として書かれたものである。

干支は十干(甲乙丙丁...)と十二支(子丑寅...)を組み合わせて60年(還暦)を表すが、今では十二支しか知らない人も多いだろう。今回は虞世南、孔子廟堂碑を参考にした。穏やかで膨らみを感じさせる楷書である。

〈孔子廟堂碑〉



辛丑暮春 よみ(辛丑暮春)

書体=楷書



習い方解説(一)

勝山初美

あしひきの山吹の花散りにけり  
井手のかはづは今や鳴くらむ  
(藤原興風)

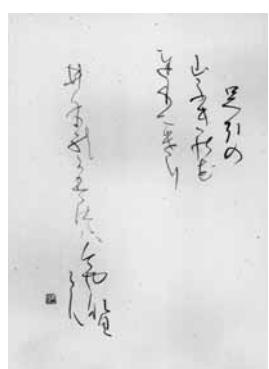
あ  
やまかみわくらむ

「山吹の花は散ってしまった。あの井手の里の蛙は、今は鳴いているであろうか」の意。

初めての担当です。まず、「高野切第一種」の倣書的作品にしてみました。創作の第一步として参考になるかと思います。

ゆったりとした運筆と墨の濃淡を意識し、集団を二つに分け安定感のある基本的な構成です。井手は名詞なので行書に、連綿は字形を崩さず、穏やかに進めて下さい。

〈参考作品〉

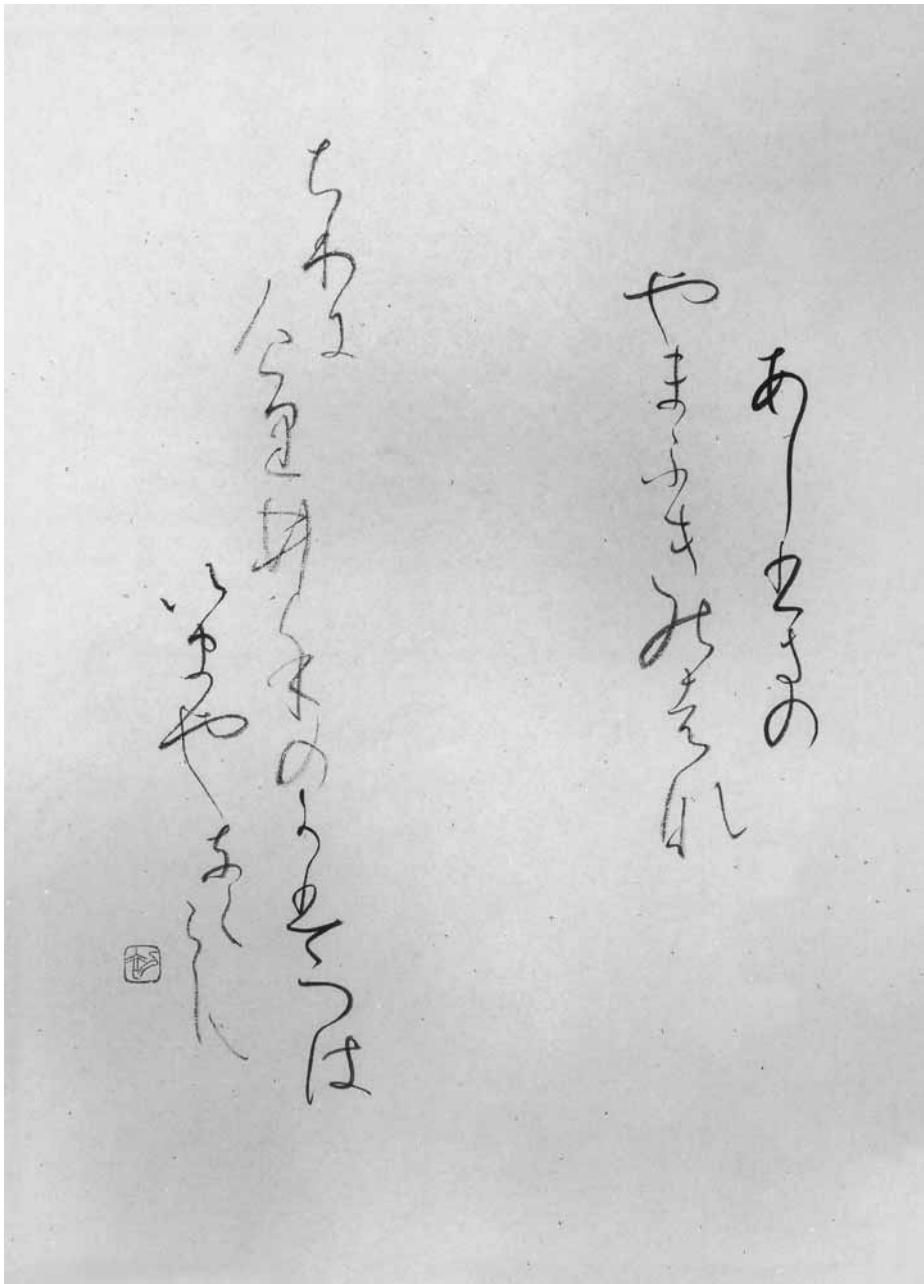


\*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。

創作

よみ方 あしひ(悲)き(支)の山吹(やまぶき)の(能)花(者那)散(ち)り(利)に(尔)け(介)り(里)

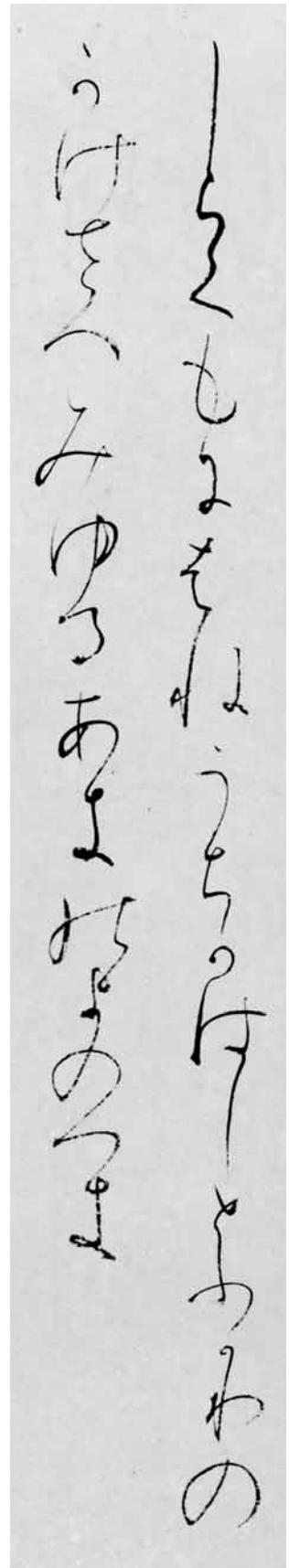
井手のか(可)は(盤)づは今(以末)や鳴(余)く(久)らむ(无)



かな規定 秀級以下【五月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。)

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大120%)



よみ方 しらく(久)もに(尔)は(者)ねうちか(可)はしとぶか(可)り(利)の  
か(可)げさへみゆるあき(支)の(能)よのつき(支)

### 習い方解説 (一)

善養寺紅風

山ざくら咲きそめしより久方の  
雲居にみゆる瀧のしら糸

(源俊頼「金葉和歌集」)



かな条幅規定【五月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

善養寺紅風選書

よみ方 山(やま)ざ(佐)く(久)ら咲(支)そ(所)め(免)しよ(興)り(利)久方の  
雲居(為)に(耳)み(三)ゆ(遊)る瀧(多継)の(能)しら糸(いと)

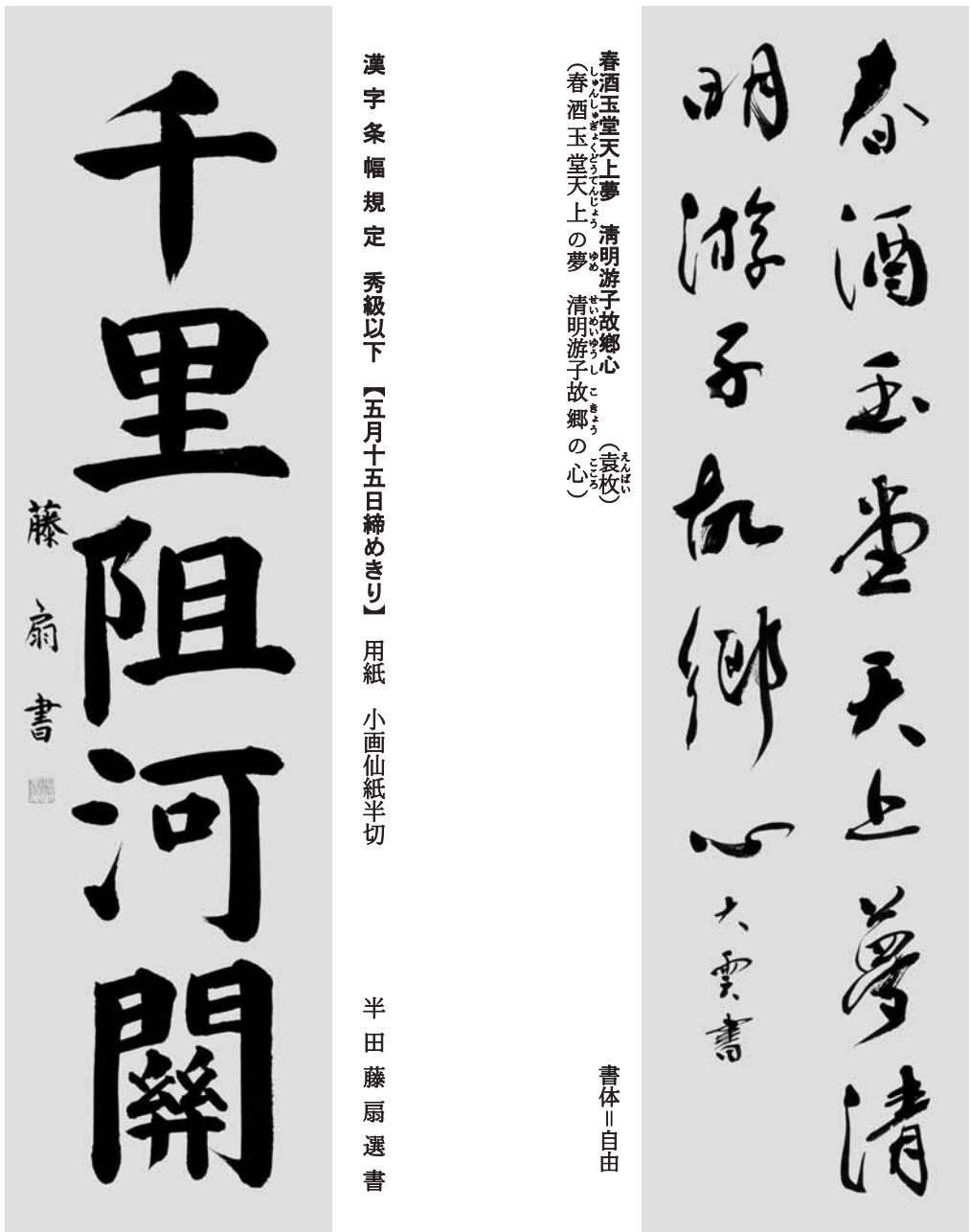
創作

\*タテ形式に限る

筆に含墨して書き始める時、力が入り過ぎると墨量が多く出て線が重くなり、変化に乏しく单调になってしまいます。美しく表現するためには、蓄えた墨を日々出してしましょう。筆の弾力や速度の変化により、濃淡やリズムが生まれてきます。

1行目、2行目の「し」は、同じ形、長さにならないように工夫して下さい。

辻元大雲



漢字条幅規定 秀級以下 [五月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

習い方解説 (一)

半田 藤 扇

今月から新しく高校生も出品されると思い、楷書で丁寧な筆運び、基本的な書き方の孔子廟堂碑風に挑戦してみました。  
息をなくゅつたりと、穏やかな作品に仕上がる事に心がけてみました。

書体=自由

千里阻河關  
(千里河關を阻つ)  
(王維)

春酒玉堂天上夢 清明游子故鄉心  
(春酒玉堂天上の夢 清明游子故郷の心)  
(袁枚)

書体=自由

\*タテ形式に限る

4月号は春に因む七言対句です。  
清明の時節に故郷を想う心情です。  
行書を主とした平明な表現としました。

今回より担当します。参考例は  
ほぼ行草体で表現しました。言う  
までもなく条幅部門は書体自由で  
すので、基礎学習のつもりで色々  
な書体・書風への挑戦を期待しま  
す。

川村美泉

春高棲の花の宴  
めぐる盃影さして

千代の松が枝わけ出でて

むかしの光今いづこ

唱歌「荒城の月」美泉書

4月から半年間、ペン字を担当させていただくことになりました。一緒に勉強させていただきますので、よろしくお願いいたします。

今回も唱歌を書いていきます。一字一字の整え方や漢字とひらがなの調和、文字群の流れなどに気をつけながら、ペンを進めていきましょう。

文字数も少ないので、何枚も何枚も練習を重ねてみてください。

春高棲の花の宴  
めぐる盃影さして  
千代の松が枝わけ出でて  
むかしの光今いづこ  
唱歌「荒城の月」

書体=自由

「注意!! 用紙の大きさにばらつきが見られます。  
用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。」

◇用紙 市販ハガキまたは私製のハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用  
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

親展 在中 清明 花冷えの日々  
親展 在中 清明 花冷えの日々

桜花爛漫の季節がまいりました  
桜花爛漫の季節がまいりました

### 三 浦 鄭 街

(楷書) 親展 在中 清明 花冷えの日々  
(楷書) 桜花爛漫の季節がまいりました

(行書) 親展 在中 清明 花冷えの日々  
(行書) 桜花爛漫の季節がまいりました

基本用語

「親展」宛名の人が自身で開封してください  
さいの意。「在中」封書の中に物が入っ  
ていること。「〇〇在中」など。

◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を

(掲載手本90%に縮小)

◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可

◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品  
各部総評

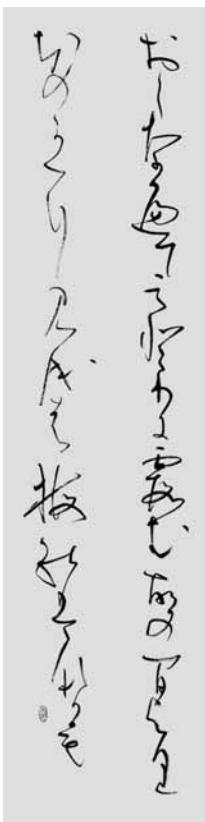
No. 718

かな部 師範 野村 幸城  
確かな基本に支えられ、小気味  
よいリズムで、紙面への収め方も  
ほど良い。さらに墨色・量の研究を。  
◎かな部総評 工夫をしての創作  
は歓迎ですが、文字の大小、配置、  
行間の処理など、十分過ぎる程の  
推稿を重ねて欲しい。（洋子評）



漢字条幅部 師範 小林 舟羅  
リズム感よく、筆の開閉を生か  
して動きある作品。落款もよく調  
和している。押印は丁寧に。

◎漢字条幅部総評 上級1行7文  
字表現はやや難しかったか。紙面  
の動きの鈍い作が多い。下級2行  
は平凡だが着実作多し。（大雪評）



かな条幅部 師範 斎藤 杏邑  
伸びやかな線はすつきりと爽や  
かな表現となった。行ごとの墨量  
の変化と文字の布置も良く流麗な作。



◎かな条幅部総評 漢字とかな文  
字の不調和な作品が多く、残念。  
急激な変化は流れも悪くなる。緑  
と保の誤字多々あり。（多希子評）



牧野富太郎博士の偉業を顕彰  
するため設立された牧野植物園  
では、高知県の植物や博士ゆかり  
の植物（スエナシ他）などを剪折り  
約三四十種が楽しめます。  
麻起書

前衛書部 特選 寺島 洋子  
技巧を抑制し運筆の基本で構成  
するも、意欲を発出させた秀作。  
今後大いに期待。

◎前衛書部総評 試行錯誤を恐れ  
ぬ作品多く感銘を受けました。更  
なる前進を。（慧香評）



ペン字部 師範 永井 麻起  
見事な布置。特に左余白と落款  
の調和が絶妙。線質は切れがあり  
立体的で引き締まった作となつた。  
◎ペン字部総評 漢字かなのバラ  
ンスと構成・余白が大事。それに  
よって作品全体の景色ができるこ  
とを再認識しましょう。（孝予評）



現代詩文書部 特選 熱海 桃翠  
この句と作品から、これまでの  
春の季節とは違う心のざわめきを  
感じる。

◎現代詩文書部総評 作品の造形  
と余白を考えた作品制作に期待。  
(掃雪評)

漢字部 師範 池田 幸子  
羊毛筆の線表現ではなかろうか。  
見事に筆脈と潤渴のバランスを醸  
し出している。品格の高い流麗作。  
◎漢字部総評 5文字の文字構成  
を多種多様に表現されていた。日  
頃、古典臨書から創作への草稿作  
りに興味を持つと…。（藤扇評）

今月の

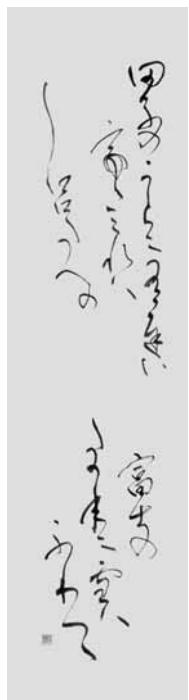
# 特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 山口仙草 佐藤菜扇 奥田瑞舟

## 小品の部

かな (奥田)

小林溪姫  
「田子の浦に」



小林溪姫書

◆潤滑が巧みで美しい作。滑らかな筆致が心地よく、下段のまとめは上々の出来だと思います。

(瑞舟評)

136×35cm

◆久しぶりの篆刻作。朱白の対比がバランスのよい布字と相互に影響し合って精妙な作。刀法が冴える。

(大雲評)

佐藤希雲書



28×18cm  
(印サイズ 3×3cm)

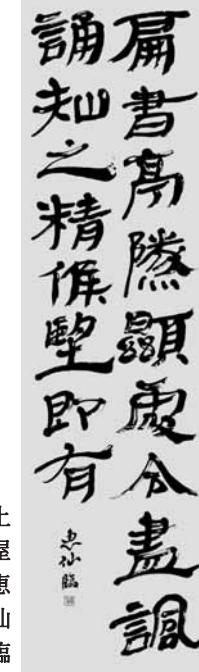
篆刻 (大雲)

佐藤希雲  
「大願成就」

印影拡大



臨書 (澄春会)  
土屋恵仙 「敦煌漢簡」



135×35cm

◆木簡隸の特徴を習得し、リズム感のある筆運び見事。のびのびとした広がりのある作品となつた。

(菜扇評)

土屋恵仙臨

◆リズミカルな運筆が行の流れと微妙な傾斜を生み、太細の変化と書き合って繊妙な作となつた。

(大雲評)

大友四峰書



137×35cm

現代詩文書

(四枝社)

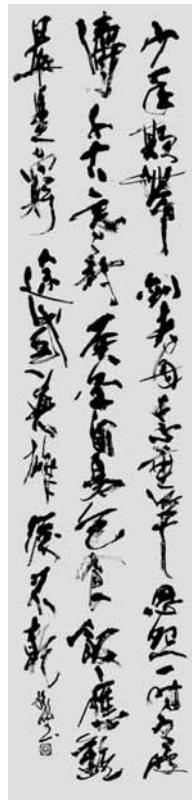
大友四峰 「窪田章一郎の歌」

漢字

創作の部(43点)	漢字 - 5点
漢字の部(34点)	かな - 6点
篆刻 - 1点	漢字 - 1点
漢字 - 1点	かな - 2点
前衛 - 8点	前衛 - 1点
現代 - 23点	現代 - 1点
臨書 - 32点	臨書 - 1点
漢字 - 2点	漢字 - 1点
創作の部	創作の部
77点	77点
総出品点数	総出品点数
特選候補者	特選候補者

# 大作の部

漢字（粹仙） 藤井龍仙 「漂母祠」



230×52cm

藤井龍仙書

◆渴筆冴え躍动感ある  
作品。迷いなく一気に  
書き進めた筆者の技量  
が窺える。墨量の変化  
が妙味を添える。

（菜扇評）

臨書（紅瑠）  
金井みどり  
「敦煌漢簡」



金井みどり臨

◆運腕大きく筆  
力も十分、氣力  
充実した見事な  
木簡臨書作。八  
分隸の用筆・結  
体など表現技術  
の高さが窺える。

（仙草評）

前衛（松風）  
西條松雲  
「芽ばえ」



西條松雲書

179×60cm

◆強韌な線で  
上部から下部  
まで鋭く貫いて  
いる。渴筆の  
変化も見事で  
觀る者を圧倒する。  
（仙草評）

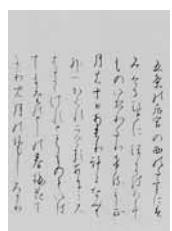
◆筆先鋭くまとめ上げ  
て、この量を最後まで  
書き終えた氣力に賛辞  
を贈りたいと思います。  
（瑞舟評）

臨書（清月） 境野和子 「元永本古今和歌集」



53×180cm

部分拡大



創作の部（33点）

漢字——5点  
かな——4点

現代——7点  
前衛——10点

漢字——20点  
かな——16点  
前衛——17点  
篆刻——4点

総出品点数  
53点

〔漢字〕 千葉竹浪  
〔臨書の部〕 紅瑠相澤  
〔かな〕 大雲宮原  
〔かな〕 大雲江本  
〔かな〕 大雲池田  
〔かな〕 猪又佐藤  
〔かな〕 猪又佐藤  
〔理扇〕 美興成美  
〔理扇〕 細舟和香  
〔理扇〕 香敷美  
〔理扇〕 静子成  
〔理扇〕 子舟敷  
〔理扇〕 静子細  
〔理扇〕 舟興美  
〔理扇〕 叙舟細  
〔理扇〕 浪相澤  
〔理扇〕 原宮江  
〔理扇〕 田本雲  
〔理扇〕 田江雲  
〔理扇〕 本猪又  
〔理扇〕 云猪又  
〔理扇〕 又理扇

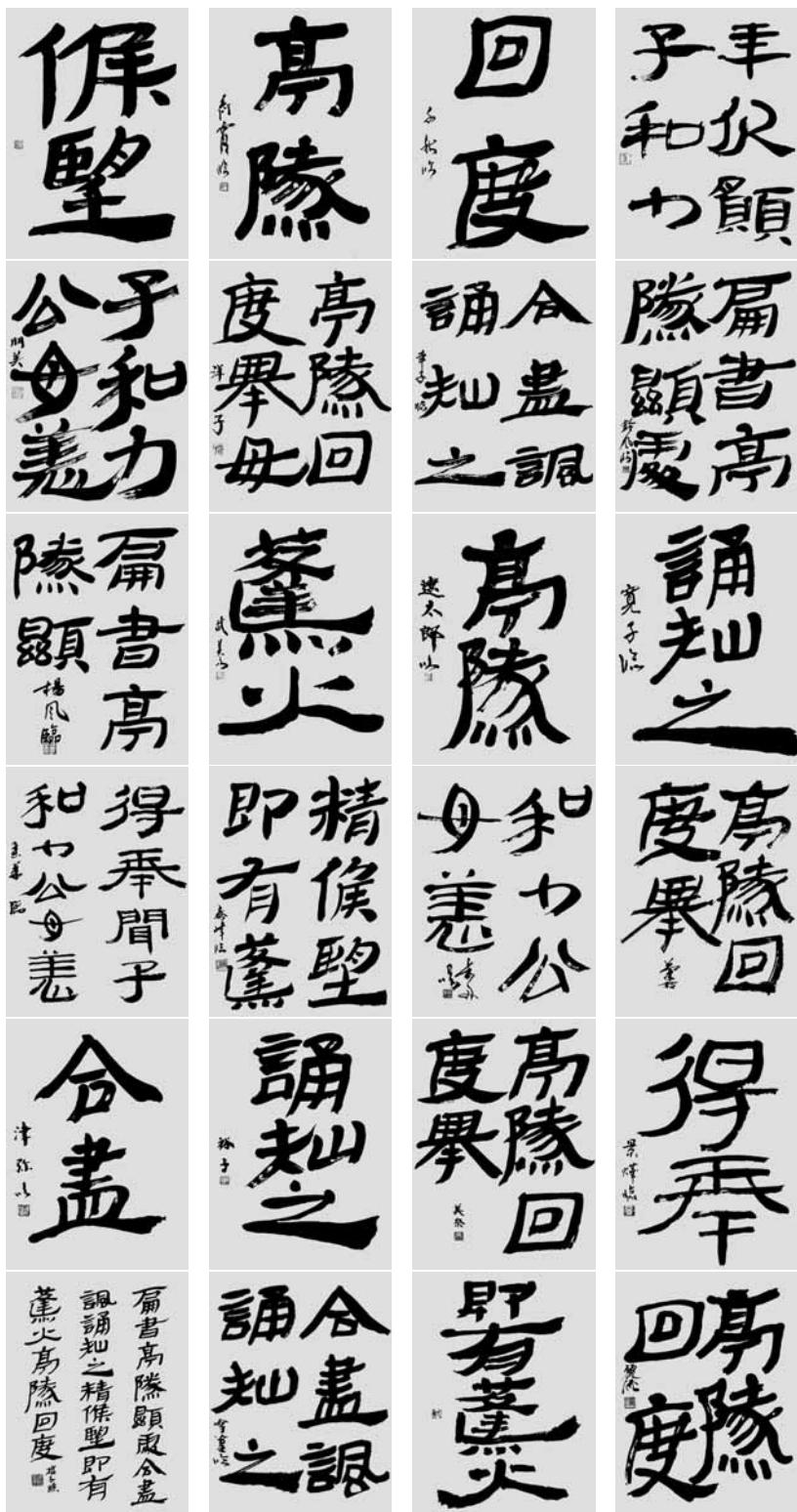
漢字研究部  
(隸書木簡)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



長澤紅苑



漢字研究部 特選 長澤紅苑  
スピーディーでリズム感に富み、その息づかいが伝わってくる見事な作です。原帖をよく観察し一気呵成に筆を運んだ姿勢が目の当たりに浮かんでいます。生きた書となりました。更なる鍛磨を期待いたします。

◎漢字研究部総評  
木簡には、謹厳な書体から素朴な書体までいろいろな表現が見られ多様性があります。

しかし、型にはまつた堅苦しさではなく、生氣に溢れていてその豊かな表情からは、書き手の息づかいまでが聞こえ、その人柄まで彷彿とさせてくれる楽しさがあります。まさに生きた書であることが最大の魅力であると思いります。臨書するにあたっては、原帖のことをよく理解して形、用筆のみにとらわれず、その背景をも理解して学書することが大事です。



## 〈半紙の部 大賞作品〉



(中) 渡辺 桧



(小) 武田 みく



(中) 川名結月



(高) 萩野 日菜子



(高) 小河原 雛子

ごあいさつ

公益財団法人書道藝術院 理事長 辻元大雲

昨年春から新型コロナウイルスの蔓延の影響は、第二波、第三波と繰り返され、年が改まても終息する気配を感じられません。

そんな厳しい状況の中、第72回全国学生書道展は昨年11月初旬に審査を無事終え、この2月の展覧会開催に向け諸準備を進めて参りました。応募された作品は半紙・半切½両部門とも若干の減少はありましたが、参加団体は増加し多くの皆さんのご協力をいただきました。出品された児童生徒の皆さん、ご指導いただいた先生方、更にご家族ご友人の方々のご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

作品は例年にも増してしっかりと丁寧に書かれており、小中学生の書写としての基礎基本を踏まえており、更に高校生以上の作品は古典臨書から創作まで多彩で見応えある力作が多く、感心させられました。

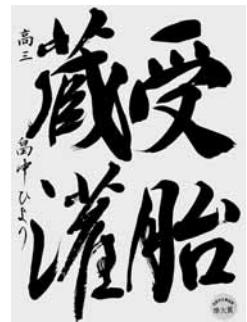
またこののような状況のため帝国ホテルでの表彰式、席上揮毫会、ワークショップなどの諸行事は全て取り止めとなりました。ご理解いただきご了承くださいますようお願い申し上げます。

コロナ禍で十分な練習もできず、ご指導された先生方にとりましても難しく困難な対応を迫られたことと想います。こんな大変な状況ではありますが、だからこそ私達の書写書道文化振興のための活動は、あきらめず一步一步継続していくなければと思います。第74回書道藝術院展、更に学展併催の指導者作品展示もあわせてご高覧いただき、ご支援ご協力ををお願い申し上げます。

＼半紙の部 準 大 賞 作 品 ／



(高)岡本のりな



(高)畠中ひより



(中)三浦千鶴



(中)近藤優衣



(中)岩床柚芭



(中)都丸愛理



(小)松浦ゆら  
浦ゆら



(小)高橋芽依



(小)曾我紗希



(中)高橋みどり

〈半切½の部 大賞作品〉



(高) 佐々木 星夏



(中) 高柿陽菜



(小) 中岡桃子

〈半切½の部 準大賞作品〉



(中) 掛布花音



(小) 日向端 榎有



(高) 高橋李佳



(中) 江藤佳奈恵



(中) 平野莉音

# 第72回 全国学生書道展 「指導者作品展」役員作品

